日本健康心理学会第33回大会

演題番号　PR0003

児童の家族関係認知が抑うつ症状に与える影響

-2年間の縦断データを用いた検討-

キーワード：抑うつ症状，家族関係，小学生，縦断調査

菊地　創[1]）富田拓郎[2]）

1）中央大学大学院文学研究科　2）中央大学文学部

筆頭著者連絡先（a11.8ffd@g.chuo-u.ac.jp）

児童期の抑うつ症状

- Sub-clinicalなレベルの抑うつ症状を含めると**小学生の10％程度**が該当する（傳田ら，2004；佐藤ら, 2006）。

- 児童期の抑うつ症状は青年期以降の抑うつ症状と比較して**家族要因の障害と強く関連する**（傳田，2011）。

抑うつ症状と家族要因

- 複数の家族要因（夫婦関係，親の養育態度，児童の家族関係認知）のなかで，**児童の家族関係認知が抑うつ症状ともっとも強く関連**する（菊地・富田，2016）。

- 家族関係についての評価は，子ども自身の報告の方が親による報告よりも子どもへの影響に密接に関連している（Cummings et al., 1994）。

先行研究の課題と本研究の目的

- 児童の家族関係認知と抑うつ症状に関する研究は1時点でのデータを扱った**横断的研究であり，縦断的な影響は明らかにされていない**。
- 本研究では小学4年生時点と小学6年生時点での**2時点の縦断データを用いて**児童の家族関係認知と抑うつ症状に関する影響モデルの検討を行うことを目的とする。

方法

- **調査時期**
  - 調査1回目（T1）は2016年4月に，2回目（T2）は2018年8月に実施した。
- **調査参加者**
  - 公立小学校1校に在学中の小学生を対象に質問紙調査を実施した。
  - T1に78名（男性46名，女子32名）が，T2に82人（男子48名，女子34名）が参加した。
  - このうち，2回の調査両方に参加し，同一児童であることが同定可能で，かつ有効回答が得られた71名（男子41名，女子30名）を分析の対象とした。
  - 平均年齢はT1では9.06±0.23歳，T2では11.39±0.49歳であった。

方法

- **使用尺度**
  - （1）DERS-C（村田ら，1996）
  - （2）子どもの認知した家族関係尺度（宮坂，2014）の下位尺度「家庭の居心地の良さ」
  - （3）フェイス項目（年齢，性別，クラス，誕生日）
- **倫理的配慮**
  - 第2著者の所属機関における学内倫理委員会による倫理審査の承認を得て実施した。
  - 同一児童の同定ではクラス名簿などは入手せず，フェイス項目から行い，属性がすべて同じで判別がつかない児童は分析対象から除外した。

基礎統計量（平均値、標準偏差、相関係数）

Table1 基礎統計量および相関分析の結果

	M(*SD*)	相関分析		
	全体	1	2	3
1 抑うつ症状（T1）	8.27 (4.48)	- -		
2 抑うつ症状（T2）	8.16 (4.99)	.32 **	- -	
3 家族関係認知（T1）	43.80 (6.52)	-.49 **	-.33 **	- -
4 家族関係認知（T2）	42.25 (7.36)	-.35 **	-.63 **	.43 **

** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.1$

モデルの検討（共分散構造分析）

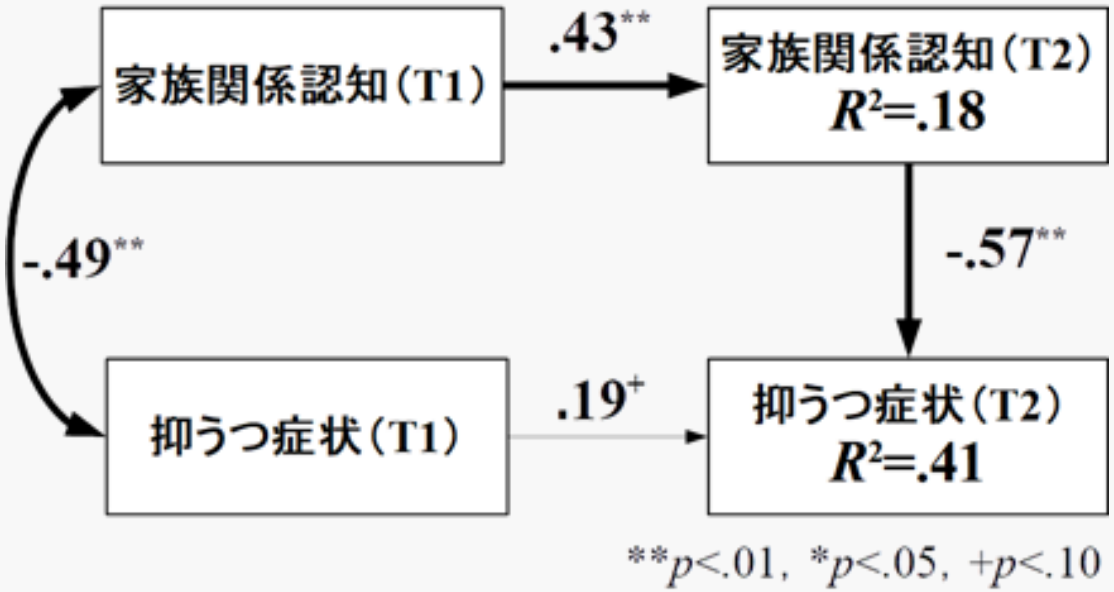

Figure1 児童の家族関係認知および抑うつ症状に関する最終モデル

- 適合度は**CFI=1.00, GFI=.99, AGFI=.93, RMSEA=.03**であり高い値が示された。
- 児童期の抑うつ症状は大きな性差がないとされており，調査参加者の数も少ないことなどから男女を分けずにモデルの検討を行った。

本研究の結果，児童の家族関係認知が短期的・一時的なものではなく，長期間維持されること，そして家族関係認知が長期間持続するのに伴って抑うつ症状も同様に持続することが示された。

抑うつ症状におけるT1からT2に対する影響が有意傾向に留まった背景

- **調査時期の影響**
  - 第1は調査時期の影響である。T1は4月（新年度の始まり），T2は8月（夏休み明け）であり調査時期が影響している可能性は排除できない。
- **4年生時点と6年生時点での抑うつ症状の質的な違い**
  - 4年生から6年生という時期は身体的変化が著しい時期であり，4年生時点での抑うつと生物学的要因（月経や精通など）が関わる6年生時点での抑うつでは男女ともに質的に異なるものとなっている可能性がある。

今後の課題

- 児童の家族関係認知をポジティブなものに変容する，あるいは家族関係認知から抑うつへの影響を低減する防御要因を明らかにするとともに，その結果に基づく介入研究を行っていく。

- 異なる集団（他校、他地域など）でも同様の結果が得られるか検証していく。

ご清聴・ご視聴ありがとうございました。

- 筆頭著者連絡先
  - Email： a11.8ffd@g.chuo-u.ac.jp

- 利益相反開示
  - 申告すべきものなし。